

1、ウガンダのスポーツ

日本にはスポーツの秋という言葉がありますが、9 月になりカンパラでもスポーツの行事が目白押しとなりました。パリオリンピックではウガンダは陸上競技で 2 つメダルを獲得しています。男子一万メートルでジョシュア・チェプテゲイ選手が金メダル、女子三千メートル障害でペルス・チェムタイ選手が銀メダルでした。今月はウガンダの野球、柔道、女子サッカーについて紹介します。

(1)野球

日本は長くウガンダの野球を支援しています。JICA 海外協力隊が 2008 年に初めて派遣され累計 10 名以上が指導にあたってきました。2014 年には草の根文化無償資金協力でウガンダ初の野球専用球場がカンパラ郊外のガヤザに完成しました。東京オリンピックに向けては、ウガンダ野球チームは予選を戦いましたが、監督は日本人の田中勝久氏でした。

ガヤザ野球場を練習場所とするカスンバ・デニス選手(現在、北海道独立リーグの旭川ビースターズで活躍中)は、SNS を中心に日本でも注目を集めています。彼の SNS は大谷翔平選手もフォローしており、話題となった事は記憶に新しいです。大谷選手所属の LA ドジャーズはウガンダの中高等学校に選手の育成支援をしています。

今月ガヤザ野球場にて 17 歳以下のキッズリーグが開催されました。ウガンダには合計 5 つの少年野球チームがあります。キッズリーグは年に 3 回このような野球大会を開催しています。7 月号で紹介しました、あしながウガンダも 2009 年以来野球チームを育成していて、今回の大会にも参加しました。これはあしながウガンダ一年研修第 6 期生の太田健太郎さん(元高校球児)の発案により遺児たちが人間として成長するために必要な要素を体験しつつ習得できるようにと野球チームが生まれたのが始まりです。現在も約 70 人のあしなが生が毎日放課後に熱心に練習を続けています。私は 9 月 8 日、ガヤザ野球場で行われたトーナメントの決勝戦を観戦し、始球式もやらせていただきました。どのチームもきびきびとしたチーム・プレーをしていたのが印象的でした。ウガンダから有名選手が出る日も遠くないでしょう。



〔選手、コーチ、関係者の皆さんと〕



〔決勝戦〕

(2)柔道

ウガンダ柔道協会は、カンパラ市内にある道場にて日々稽古をしています。ウガンダ柔道協会の黒帯保持者セキウंगा・ジョージ・ウィリアム氏は、2019 年 12 月に開催した「ウガンダ日本祭り 2019」、2022 年 3 月にマケレレ大学で開催した「ジャパンウィーク 2022」及び今年 3 月に開催した「ウガンダ日本祭り 2023」にて柔道のレクチャーデモンストレーションを実施してくださいました。2024 年カザフスタンで開催された柔道グランドスラムにはウガンダ代表選手が出場しています。

9 月 7 日、マケレレ大学で開催されたウガンダ国内柔道リーグでは、白熱した試合が行われました。



〔選手、関係者の皆さん〕



〔熱戦の様子〕

(3)女子サッカー

9 月 6 日、ジンジャに出張した際に、第 3 回 TICAD カップ女子サッカー大会の開会式に参加しました。この大会は本田圭祐氏がオーナーを務め、ウガンダプレミアリーグに所属するプロサッカーチーム、SOLTILO Bright Stars FC と JICA ウガンダ事務所が 2021 年にパートナーシップ協定を結んだことを契機に始まりました。TICAD カップは女子サッカーを通じ、難民とホストコミュニティの共存、女性のエンパワーメントなどを目的としてスポーツと開発をテーマとしたイベントです。参加者はウガンダ国内の女子サッカーチーム合計 6 チーム(16～19 歳の女性)です。そのうち 3 チームは難

民とホストコミュニティとの混成チームです。JICA、SOLTILO のほか、首相府難民局、UNHCR、ウガンダサッカー協会が共催しています。大会に合わせ、JICA の海外協力隊員有志による日本文化紹介ブースなども開かれていました。ウガンダで生活する難民の選手の参加数も今回は 30 名近くとなりました。ウガンダは 170 万人もの難民を国内に受け入れ、様々な困難に直面している現実があります。このような取り組みを通じホストコミュニティと難民の交流の場が継続する事は素晴らしいことだと感じました。



〔選手、関係者の皆さん〕



〔熱戦の様子〕

2、ジンジャ出張

車でカンパラから東へ約 80 km(2 時間余り)。ナイルの源流で有名なジンジャに出張して参りました。

(1)ナイル橋(Source of Nile Bridge)

ナイル川の源流近くにかかる美しい吊り橋であるナイル橋は日本が有償資金協力で建設した橋です。現在ではウガンダを紹介する書籍の中でも大きく写真が掲載されています。ウガンダを代表する建築物の 1 つと言って良いでしょう。2018 年 10 月に完成したこの橋は夜間ライトアップされる日もあり市民の憩いの場ともなっています。ナイル川を渡るこの橋は交通の要衝ともなっており、ウガンダと近隣諸国を結ぶ重要インフラの 1 つとなっています。橋を管理する技術者は日本で研修を重ねた方が多く働いています。明石海峡大橋のメンテナンスを最近経験してきた、という方もいました。橋を通行する車両の管理システムも日本の支援です。単に架橋するだけではなく、技術移転や人材養成にも大きな貢献が行われていました。

私も初めてこの橋を訪れ、橋の頂上に「登頂」しました。雄大なナイルの流れが眼下に広がります。ここから約 90 日をかけてエジプト、地中海まで河は流れていきま

す。ナイルの水面に近代的な吊り橋が溶け込み、美しい写真のようになっていました。



〔橋の頂上〕



〔Source of Nile、ビクトリア湖を望む〕

(2) サラヤ現地工場

8月のJUSTフォーラムにも参加いただいたサラヤの現地工場はジンジャにあります。今回現地工場にお邪魔いたしました。整理された生産ラインから様々な商品が生み出されていきます。ウガンダ国内はもちろん近隣諸国へも輸出され、新しい製品開発にも取り組んでいます。ウガンダに工場を持つこととなったのは地元の大手精糖会社との連携が大きな要素だったとのこと。製糖工場で生産されるエタノールが重要な原料となるからです。同社の製品は東アフリカの保健衛生の状況改善に直接役立っています。大きな社会貢献を行っている工場施設だと強く感じました。



〔工場内視察〕



〔工場の前で工場長と〕

(3)ウガンダ国営電気自動車工場(Kiira 社)

Kiira はウガンダの自動車産業振興のため設立された国営の電気バス製造会社です。その歴史は 2008 年に遡りマケレレ大学の研究者が電気自動車の研究を始めたことにさかのぼるそうです。

同社は環境問題に対処するため、また国内の産業振興のため電気バスの現地生産に取り組んできました。2024 年には大型バスなどの製造が開始されました。ウガンダの公共交通機関は脆弱です。自動車による空気汚染も深刻です。これらの問題に対処するため、2040 年を目標年として電気自動車の普及、製造、販売に力を入れています。

私が訪れた工場では生産ラインがきちんと整備されていました。大きな内装の異なるものなどいくつかの異なる種類の電気バスが製造可能です。ジンジャ市内、またエンテベ国際空港にはすでに実際に使用されています。今後の電気バスの本格的な普及に期待したいと思います。



[電気バス試乗]



[工場内視察]

(以上)